

国際関係論	・・・P1～
ジェンダー・セクシュアリティ論	・・・P2～
画像医学	・・・P4～
がんリハビリテーション学	・・・P6～
災害リハビリテーション論	・・・P8～
研究方法論	・・・P10～
医療統計学演習	・・・P12～
作業科学と作業療法理論	・・・P14～
国際作業療法論	・・・P17～
作業療法研究法演習	・・・P19～
作業療法管理学	・・・P22～
身体障害作業療法学演習Ⅱ	・・・P24～
精神障害作業療法学演習	・・・P26～
老年期障害作業療法学演習	・・・P28～
発達障害作業療法学演習	・・・P31～
高次脳機能障害作業療法学演習	・・・P34～
臨床技能実習Ⅱ	・・・P36～
認知症・介護予防作業療法論演習	・・・P39～
身体障害作業療法学特論	・・・P41～
生活環境整備学演習	・・・P43～
地域生活・社会参加支援論	・・・P45～
地域作業療法学	・・・P47～
地域作業療法学演習	・・・P48～
臨床実習Ⅳ	・・・P50～

科目名	国際関係論【保健3】	科目名(英語)	国際関係論
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	吉高神明		
開講年次	3	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本講義の目的は、転換期を迎えている今日の世界と日本を理解するための分析視角と考察枠組みを学ぶことにある。この場合、2011年3月11日の東日本大震災以後の日本を取り巻く国内・国際情勢に焦点を当てつつ、授業を行なう。その際、「グローバル(global+local)」という視点を手掛かりに、3.11の被災地福島と転換期世界との関連性を理解することに重点を置くものである。具体的には、「東アジアのダイナミズム」、「BOPビジネス」、「クール・ジャパン」、「ダーク・ツーリズム」などのテーマを取り上げる予定である。</p>			
学習目標			
<p>本講義が設定する学習目標は以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論の分析視角と考察枠組みについて、一定の理解を有するようになる 2. 転換期を迎えた世界、日本、福島の現状と課題について、体系的に理解できるようになる。 3. 現在関心を集めている国際問題について、自分なりの説明と分析を行えるようになる。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク①	吉高神明
第2回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク②	吉高神明
第3回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク③	吉高神明
第4回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク④	吉高神明
第5回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性①	吉高神明
第6回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性②	吉高神明
第7回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性③	吉高神明
第8回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性④	吉高神明
第9回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」①	吉高神明
第10回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」②	吉高神明
第11回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」③	吉高神明
第12回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」④	吉高神明
第13回		3.11からの復興と「ダーク・ツーリズム」①	吉高神明
第14回		3.11からの復興と「ダーク・ツーリズム」②	吉高神明
第15回		まとめ	吉高神明
テキスト	授業の際に、必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	<p>自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。</p> <p>首相官邸: http://www.kantei.go.jp 外務省: http://www.mofa.go.jp/mofaj 福島県庁: https://www.pref.fukushima.lg.jp/</p>		
成績の評価方法	<p>授業の最終成績は、以下の基準に基づいて決定する。</p> <p>出席・小レポート・授業への貢献状況: 20点 授業の際に出される諸課題: 30点 最終レポート: 50点</p>		
その他	<p>「国際関係論」は理系学生にとっては聞きなれない学問分野であるが、政治、経済、外交、安全保障の問題についての基礎的知識のない学生にも配慮しつつ、授業を展開する予定である。授業は原則的に講義中心で行うが、リサーチ実習、グループ討論、個人発表なども積極的に取り入れていきたい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。</p>		

科目名	ジェンダー・セクシュアリティ論【保健3】	科目名(英語)	ジェンダー・セクシュアリティ論
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	有吉健太郎		
開講年次	3	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>ジェンダー/セクシュアリティ研究とは、「性」をめぐる様々な事柄(性別、性差、性欲、性行為など)について、自然科学ではなく社会科学の側からアプローチする学問分野である。本講義では、医療に携わる者として習得すべきジェンダー/セクシュアリティ研究の知見について解説する。授業ではイントロダクションでジェンダー/セクシュアリティ研究が扱う領域について学んだ後、「近代家族と女性・男性の就労」「性暴力とセクシュアル・ハラスメント」「日本における性的マイノリティ」の三つの大テーマについて学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>①近代家族と女性の就労について基本知識を習得し、性別を問わず誰もが自分らしい人生を送れる社会をつくるために自分たちに何ができるかを考えることができる。 ②ジェンダー非対称構造による女性の性被害の実現について知り、性の自己決定権・性的自由という考え方がなぜ必要不可欠なのかについて説明できるようになる。 ③性自認および性的指向(SOGI)と日本における性的マイノリティをとりまく現状について学び、その知識を専門医療技術者としてまた一人の社会人としての行動に繋げることができる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		イントロダクション	前川直哉(福島大学)
第2回		近代家族と性別役割分業観	前川直哉(福島大学)
第3回		女性の就労とM字カーブ(1)	前川直哉(福島大学)
第4回		女性の就労とM字カーブ(2)	前川直哉(福島大学)
第5回		男性ホモソーシャル大国・日本	前川直哉(福島大学)
第6回		福島県におけるジェンダーの現状と課題	前川直哉(福島大学)
第7回		医療現場とジェンダー	前川直哉(福島大学)
第8回		性的自由と性暴力	前川直哉(福島大学)
第9回		セクシュアル・ハラスメント	前川直哉(福島大学)
第10回		視線の力学におけるジェンダー非対称	前川直哉(福島大学)
第11回		性自認と性的指向	前川直哉(福島大学)
第12回		同性愛と同性婚	前川直哉(福島大学)
第13回		トランスジェンダーと性同一性障害	前川直哉(福島大学)
第14回		医療と性的マイノリティ	前川直哉(福島大学)
第15回		まとめと振り返り	前川直哉(福島大学)
テキスト	なし。毎回の授業時にレジュメを配布する。		

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画統計研究会編『男女共同参画統計データブック2015：日本の女性と男性』（ぎょうせい、2015年） ・角田由紀子『性と法律——変わったこと、変えたいこと』（岩波新書、2013年） ・石田仁『はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで』（ナツメ社、2019年） ・森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年） ・前川直哉『男の絆：明治の学生からボーイズ・ラブまで』（筑摩書房、2011年） ・前川直哉『〈男性同性愛者〉の社会史：アイデンティティの受容／クローゼットへの解放』（作品社、2017年）
成績の評価方法	<p>成績評価は ①出席状況 ②授業への参加状況 ③授業内の小テスト・課題 ④期末試験 に基づき行う。出席状況または授業への参加状況が著しく悪い場合は期末試験の受験を認めない場合がある。</p>
その他	

科目名	画像医学【保健3】	科目名(英語)	画像医学
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	佐藤久志(診療放射線科学科)		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>現在の医療において、画像診断はなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では特に画像診断学の基礎を学び、診療において活用できる基礎知識を得る。特に、疾患診断に必要な医用画像について、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、代表的な疾患の画像所見について学習する。講義では、人体の画像解剖をCT画像を用いて理解し、さらに一般的な疾病の臨床画像を示しながら画像診断法を学習し、診断の目的に適した画像の選択とそれらの画像のもつ臨床的意義について学ぶ。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 画像診断に必要な画像解剖を知る。 2. 画像診断法について知る。 3. 臓器毎、疾患毎の画像診断学の基礎を学ぶ。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		画像医学総論 画像診断装置 治療と画像医学	佐藤久志(診療放射線科学科)
第2回		画像診断の進め方 中枢神経 (MRI, CT)	伊藤浩(医学部放射線科学講座)
第3回		中枢神経 (核医学を中心に)	伊藤浩(医学部放射線科学講座)
第4回		胸部(肺) (CTを中心に)	森谷浩史(大原総合病院)
第5回		胸部(循環器) (MRI, CT, 核医学を中心に)	関野啓史(医学部放射線科学講座)
第6回		腹部(肝・胆・膵) (MRIを中心に)	藤巻秀樹(放射線医学講座)
第7回		腹部(肝・胆・膵) (CT, 核医学を中心に)	藤巻秀樹(放射線医学講座)
第8回		腹部(消化管) (CTを中心に)	歌野健一(会津医療センター)
第9回		腹部(泌尿器) (MRI, CT, 核医学を中心に)	長谷川靖(放射線医学講座)
第10回		腹部(婦人科・乳腺) (MRI, CT, 核医学を中心に)	長谷川靖(放射線医学講座)
第11回		筋肉・骨・関節 (MRI, CT, 核医学を中心に)	箱崎元晴(放射線医学講座)
第12回		腫瘍・骨・炎症・内分泌 (核医学を中心に)	石井士朗(放射線医学講座)
第13回		IVR(血管IVRをメインとして非血管IVRも含む)	関野啓史(放射線医学講座)
第14回		救急	黒岩大地(放射線医学講座)
第15回		まとめ	佐藤久志(診療放射線科学科)
テキスト			
参考書	画像診断学 南山堂		

成績の評価方法	レポート100%
その他	

科目名	がんリハビリテーション学【保健3】	科目名(英語)	がんリハビリテーション学
区 分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	五百川和明		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修(作業療法学科), 選択(理学療法学科)	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本科目は、がんの病態と医学的治療、がんリハビリテーション、及びチーム医療の実践に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、がんリハビリテーションの概要、乳がんや脳腫瘍、頭頸部がん、骨・軟部腫瘍等の周術期のリハビリテーション、化学療法や放射線医療、造血器腫瘍とリハビリテーション、がんによる各種障害、緩和ケア、がん患者の心のケア等について学び、がんの各疾患や病期、特性等を踏まえたリハビリテーションについて理解を深める。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの病態と治療について説明できる。 2. がんリハビリテーションの目的とチーム医療の役割について説明できる。 3. がんの各疾患別のリハビリテーションについて、治療法や病期に応じたリハビリテーションの目的と基本的な介入方法について説明できる。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		がんリハビリテーションの概要 チーム医療の役割	矢吹省司(理学療法学科)
第2回		周術期リハビリテーション(開胸・開腹術)	河野浩二(医学部消化管外科学講座)
第3回		周術期リハビリテーション(乳がん)	大竹徹(医学部乳腺外科学講座)
第4回		周術期リハビリテーション(脳腫瘍)	藤井正純(医学部脳神経外科学講座)
第5回		周術期リハビリテーション(頭頸部がん)	川瀬友貴(医学部耳鼻咽喉科学講座)
第6回		周術期リハビリテーション(骨・軟部腫瘍、脊髄腫瘍)	矢吹省司(理学療法学科)
第7回		化学療法とリハビリテーション	佐治重衡(医学部腫瘍内科学講座)
第8回		造血器腫瘍、造血幹細胞移植とリハビリテーション	森下慎一郎(理学療法学科)
第9回		骨転移とリハビリテーション	矢吹省司(理学療法学科)
第10回		がんによるADL・IADL障害とリハビリテーション	高橋勝(附属リハビリテーションセンター)
第11回		がんによる摂食・嚥下障害・コミュニケーション障害とリハビリテーション	菅野和広(附属リハビリテーションセンター)
第12回		がんによる高次脳機能障害とリハビリテーション	二村美也子(附属リハビリテーションセンター)
第13回		リンパ浮腫とリハビリテーション	山本優一(北福島医療センター)
第14回		緩和ケアとリハビリテーション	佐藤薫(医学部麻酔科学講座)
第15回		がん患者の心のケアとリハビリテーション	三浦至(医学部神

回		経精神医学講座)
テキスト	辻哲也、編 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学別巻 がんのリハビリテーション 医学書院 2018	
参考書	辻哲也編 がんリハビリテーションマニュアル 医学書院 2016	
成績の評価方法	定期試験100%	
その他		

科目名	災害リハビリテーション論【保健3】	科目名(英語)	災害リハビリテーション論
区分	専門基礎	単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>本科目は、災害時の医療とリハビリテーション専門職に求められる活動に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、災害時の各フェーズ（被災混乱期・応急修復期・復旧期・復興期）とリハビリテーションアプローチ、災害支援チームの在り方、支援活動と倫理、被災者の心の支援、平時の体制と準備、災害ボランティアの役割と活動、及び国際協力と災害リハビリテーション等について学び、災害支援の在り方について理解を深める。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」及び「危機対応・災害医療」に対応する科目である。</p>			
学習目標			
<p>1) 災害リハビリテーションの役割について説明できる。 2) 災害フェーズ別のリハビリテーション支援の概要について説明できる。 3) 災害に備えた平時の体制、準備とボランティア活動の役割を理解し、説明できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		災害リハビリテーション総論、大規模災害とは	大井直住 (医学部リハビリテーション医学講座)
第2回		災害フェーズ分類と対応	島田二郎 (ふたば救急総合医療支援センター)
第3回		各フェーズにおける災害医療	同上
第4回		各フェーズにおける災害リハビリテーション	矢吹省司 (理学療法学科)
第5回		災害支援チームの在り方	島野光正 (郡山医療介護病院)
第6回		災害リハビリテーション活動における倫理、留意点	同上
第7回		被災者の心の支援	同上
第8回		災害に対する平時の体制、準備対応	田代雅実 (診療放射線科学科)
第9回		災害ボランティアの役割と活動	同上
第10回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(被災混乱期、応急修復期)	小野田修一 (南相馬市立総合病院)
第11回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(復旧期)	同上
第12回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(復興期:地域生活支援)	椎野良隆 (竹田総合病院)
第13回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(復興期:街づくり)	同上
第14回		行政における災害リハビリテーション	星真琴 (南相馬市健康福祉部)
第15回		国際協力と災害リハビリテーション	同上
テキスト	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会編 災害リハビリテーション標準テキスト 医歯薬出版 2018		

参考書	なし（配布資料）
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	研究方法論【保健3】	科目名(英語)	研究方法論
区分	専門教育科目	単位数	1.0
担当責任者	北爪しのぶ		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。そのために、まず論文の基本的な構成について学び、既知の研究内容を把握するためにも、文献検索方法を習得する。研究の倫理的な問題について理解する。研究目的からの研究立案について、身近な例をあげながら、学生に考え、議論してもらう。実際の研究例を見ながら具体的な研究の進め方について、また研究内容にプレゼンテーション方法について学ぶことで、卒業研究に向けた準備とする。</p>			
学習目標			
<p>(1) 論文の基本構成について理解する。 (2) 基礎的な文献検索が出来る。 (3) 研究倫理について理解する。 (4) 研究目的から研究立案まで、研究のステップを理解する。 (5) 具体的な研究例を通して研究デザインを理解する。 (6) 研究のプレゼンテーション・スキルを理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション、研究事始め(リサーチマインドをもった臨床家になるために)	川又寛徳(作業療法学科)
第2回		論文の基本構成と検索の仕方	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第3回		研究のステップ、研究倫理	同上
第4回		疑問の構造化	川又寛徳(作業療法学科)
第5回		疑問のモデル化、測定デザイン(変数、アウトカム指標)	川又寛徳(作業療法学科)
第6回		測定機器(適応と限界)	福田篤志 (診療放射線科学科)
第7回		研究デザインの型1:介入研究(バイアス、交絡、治験、RCT)	義久精臣 (臨床検査学科)
第8回		研究デザインの型2:観察研究(縦断研究、横断研究)	高橋仁美(理学療法学科)
第9回		研究デザインの型3:症例・事例研究	川又寛徳(作業療法学科)
第10回		研究デザインの型4:質的研究	片桐和子(看護学部)
第11回		研究デザインの型5:基礎研究	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第12回		産学連携研究	家村俊一郎(医療-産業TRセンター)
第13回		効果的な研究発表	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第14回		論文執筆方法について	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第15回		論文検索の実際とまとめ	北爪しのぶ(臨床検査学科)
テキスト	無し		

参考書	無し
成績の評価方法	レポート70%、小テスト30%
その他	無し

科目名	医療統計学演習【保健3】	科目名(英語)	医療統計学演習
区分	自然科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	柴田 恭子		
開講年次	3	教室	
必修/選択	4学科必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
学習目標			
・統計ソフトEZRを使って医療分野のデータ解析を行うことができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			

第26 回			
第27 回			
第28 回			
第29 回			
第30 回			
テキスト			
参考書			
成績の評価方法	提出課題100%		
その他	<p>(1) 1年次の情報処理でEZRをインストールした自分のパソコンを持参すること。</p> <p>(2) 演習課題の提出により出席確認を行います。</p> <p>(3) 下記のいずれかの項目に該当する場合は、演習課題を提出しても評価しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題演習で代筆・カンニング等、不正行為が認められた場合 ・途中退室、私語が多いなど授業態度が悪い場合 		

科目名	作業科学と作業療法理論【保健3】		科目名(英語)	作業科学と作業療法理論
区分	専門科目		単位数	2.0
担当責任者	川又寛徳			
開講年次	3	教室	講義室	
必修/選択	必修		授業形態	講義
受講要件	なし			
授業の概要				
<p>人と作業、環境との相互関連性を学び、人の健康や生活・人生において、作業がどのような意味・意義を持つのかを理解することを目指す。作業の定義や種類、作業の意味、人-作業-環境との関連、活動と参加における作業、作業科学の概要と実践、及び作業療法の理論やモデル、その応用について学び、人々が様々な作業を通して社会に参加し他者と交流すること、日々の生活における作業が心身の機能や健康維持に関係していることを理解する。</p>				
学習目標				
<p>1) 人と作業、環境との相互関連性を理解する。 2) 人の健康や生活・人生において、作業がどのような意味・意義を持つのか理解する。 3) 作業科学の概要と実践への適応について理解する。 4) 作業療法の理論やモデルについて理解する。</p>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回		オリエンテーション、理論と実践		川又寛徳
第2回		理論の意義とレベル		同上
第3回		作業療法パラダイムの変遷 前パラダイム期—作業パラダイム期		同上
第4回		作業療法パラダイムの変遷 機械論—現代		同上
第5回		作業科学 作業の視点、意味、形態、機能		同上
第6回		作業科学 作業的存在		同上
第7回		作業科学 作業的公正		同上
第8回		作業科学 作業的不公正		同上
第9回		作業科学 実践への適応: Well Elderly Study		同上
第10回		作業科学の実践への適応 実践への適応: Lifestyle Redesign, PUPS		同上
第11回		人間作業モデル 概要、意志		同上
第12回		人間作業モデル 習慣化		同上
第13回		人間作業モデル 遂行能力、環境の相互作用		同上

第14回	人間作業モデル 作業適応、作業同一性・有能性	同上
第15回	人間作業モデル 評価：MOHOST、OSA	同上
第16回	人間作業モデル 評価：OQ、興味チェックリスト、役割チェックリスト	同上
第17回	作業遂行と結びつきのカナダモデル 概要、クライアント中心	同上
第18回	作業遂行と結びつきのカナダモデル 作業可能化	同上
第19回	カナダ作業遂行測定(COPM)	同上
第20回	カナダ作業遂行測定(COPM)の演習	同上
第21回	プロセスモデル MTDLPの概要	同上
第22回	プロセスモデル MTDLPの演習	同上
第23回	プロセスモデル OPTIM、OPPM、OTPF	同上
第24回	作業療法リーズニング 科学的、相互交流的、状況的	同上
第25回	作業療法リーズニング 実際の、叙述的、倫理的	同上
第26回	理論と実践 理論やモデルによるクライアントの説明	同上
第27回	理論と実践 理論やモデルによる実践の説明	同上
第28回	理論を用いた作業分析 各種理論の観点から作業を分析する（演習）	同上
第29回	理論を用いた作業分析 各種理論の観点から作業を分析する（発表）	同上
第30回	総括	同上
テキスト	○「作業」って何だろう第2版 作業科学入門 吉川ひろみ 医歯薬出版 ○作業療法実践の理論 第4版 Kielhofner.G(山田孝・監訳)、医学書院	
参考書	●キールホフナーの人間作業モデル 第5版、協同医書出版 ●作業科学 作業的存在としての人間の研究 Zemke.R、Clark.F(佐藤剛・監訳)、三輪書店 ●続・作業療法の視点 作業を通しての健康と公正 Townsend.E、Polatajko.HJ(吉川ひろみ・監訳)、大学教育出版 ●作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド 吉川ひろみ、医学書院	
成績の評価方法	試験50%、レポート50%	

その他	作業と健康、作業療法の理論と実践の結びつきについて理解を深めてください。

科目名	国際作業療法論【保健3】	科目名(英語)	国際作業療法論
区分	専門科目(基礎作業療法学)	単位数	1.0
担当責任者	五百川和明		
開講年次	3	教室	講義室10
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>100カ国超で提供される作業療法は、医療と生活の懸け橋となる専門領域であり、作業療法士は世界共通の視点を有する一方で、各地域の歴史や文化などに彩られた特性を把握し、その地域に適したサービスを提供している。つまり、作業療法士は地域の医療と生活ならびにその阻害因子に対処する視点を有する。本講義は、作業療法の国際性の視点から「地球規模で考え、足元から行動せよ(Think globally, act locally.)」の考え方と方策を具体例から教授する。内容としては、諸外国の作業療法及び作業療法士の現状、世界作業療法士連盟の活動や青年海外協力隊による作業療法支援などについて学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>1) 作業療法の視点から地球規模に拡大して様々な変化を引き起こすグローバル化(globalization)を理解する。 2) 作業療法の視点から地域の特徴や特性を考慮する「地域限定化(localization)」を理解する。 3) 作業療法の視点から「グローバル化(glocalization)」を理解する。 4) 作業療法から視点から「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals; SDGs)」を理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		国際作業療法論総論	五百川和明 (作業療法学科)
第2回		作業療法の成り立ちとその世界共通性	五百川和明 (作業療法学科)
第3回		世界作業療法士連盟と日本作業療法士協会	五百川和明 (作業療法学科)
第4回		作業療法教育の世界基準	五百川和明 (作業療法学科)
第5回		日本と米国の作業療法の類似点と相違点	高橋香代子(北里大学)
第6回		日本と欧州の作業療法の類似点と相違点	高橋香代子(北里大学)
第7回		日本と発展途上国の作業療法の類似点と相違点	大槻美佳(メディカル・ケア・サービス株式会社)
第8回		CBR (Community-based Rehabilitation)、PHC (Primary Health Care)	佐藤寿晃(山形県立保健医療大)
第9回		人権、作業剥奪	佐藤善久(東北福祉大学)
第10回		国際作業療法の実際(海外留学経験の立場から)	佐藤善久(東北福祉大学)
第11回		国際作業療法の実際(国際学会発表経験の立場から)	曾根稔雅(作業療法学科)
第12回		国際作業療法の実際(青年海外協力隊経験の立場から)	星真琴(南相馬市健康福祉部)
第13回		国際作業療法の実際(国際ネットワークづくりの立場から)	大槻美佳(メディカル・ケア・サービス株式会社)
第14回		国際作業療法の実際(日本作業療法士協会国際部の立場から)	曾根稔雅(作業療法学科)

第15 回	作業療法の視点からThink globally, act locally.とは何か	五百川和明（作業 療法学科）
テキスト	なし（配布資料）	
参考書		
成績の評価方法	定期試験100%	
その他		

科目名	作業療法研究法演習【保健3】	科目名(英語)	作業療法研究法演習
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	倉澤茂樹		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
<p>研究方法論で学んだことに基づき、作業療法の代表的な研究を題材として、作業療法研究の一連の過程を問題解決型学習形式で学習する。また、卒業研究に向けて、学生が研究計画の一部を立案することを目指す。内容としては、作業療法の代表的な研究を題材に、福原の「研究の7つのステップ」に準じて、研究疑問の着想から発表までのプロセスを模擬体験し、著者の考えや研究のプロセスにおいて重要なポイントを学生間で議論し、整理する。検討した内容をわかりやすくまとめて資料を作成し、発表する。さらに、卒業研究に向けて、学生が自身の研究疑問から研究課題を設定し、研究計画の一部を立案することを目指す。</p>			
学習目標			
<p>1) 作業療法の研究過程を理解できる。 2) 作業療法の研究論文からPICO (PECO) などの重要なポイントを抽出できる。 3) 学習成果をわかりやすくまとめ、発表できる。 4) 研究計画の一部を立案することができる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション、作業療法研究概論：研究のプロセス、着想から公表まで	倉澤茂樹
第2回		研究の7つのステップ (1) 研究疑問の構造化	同上
第3回		研究の7つのステップ (2) 文献レビュー(講義)	同上
第4回		研究の7つのステップ (2) 文献レビュー(演習)	同上
第5回		研究の7つのステップ (3) 疑問のモデル化	同上
第6回		研究の7つのステップ (4) 測定をデザインする	同上
第7回		研究の7つのステップ (5) 研究の型を選ぶ	同上
第8回		研究の7つのステップ (6) 比較の質を高める	同上
第9回		研究の7つのステップ (7) 倫理的配慮	同上
第10回		<p>問題解決型学習 課題論文の提示(OTの優良研究、もしくは教員自身の研究、各種研究デザインを網羅、)とグループワークの進め方</p> <p>質的研究 観察研究 介入研究</p>	倉澤茂樹・澄川幸志・藤田貴昭・浅尾章彦・石川陽子・田中善信

		それぞれ3～4編	
第11回		問題解決型学習 課題論文の読み込み、課題論文の研究疑問の抽出	同上
第12回		問題解決型学習 課題論文の研究疑問の背景の抽出	同上
第13回		問題解決型学習 課題論文の研究疑問の背景の整理、検討	同上
第14回		問題解決型学習 課題論文のPICO、PECO（対象、要因・介入、比較対象、アウトカム）	同上
第15回		問題解決型学習 課題論文の研究疑問のFIRMNESSチェック（実施可能性、興味深さ、切実さ、独自性、倫理性など）	同上
第16回		問題解決型学習 課題論文の研究疑問のモデル化の検討	同上
第17回		問題解決型学習 課題論文の研究疑問のモデル化の整理	同上
第18回		問題解決型学習 課題論文の交絡とバイアス、その対処	同上
第19回		問題解決型学習 課題論文のサンプルサイズ設計、解析方法	同上
第20回		問題解決型学習 グループワークのまとめ	同上
第21回		問題解決型学習 発表資料の作成	同上
第22回		問題解決型学習 発表：A、B、Cグループ	同上
第23回		問題解決型学習 発表：D、E、Fグループ	同上
第24回		問題解決型学習 発表：G、H、Iグループ	同上
第25回		問題解決型学習 発表：Jグループ、全体の総括	同上
第26回		問題解決型学習 研究計画の立案：研究疑問の列挙	同上
第27回		問題解決型学習 研究計画の立案：研究疑問の構造化（PICO、PECO）	同上
第28回		問題解決型学習 研究計画の立案：研究疑問の構造化（FIRMNESSチェック）	同上
第29回		問題解決型学習 研究計画の立案：文献レビュー	同上

第30 回	問題解決型学習 研究計画の発表	同上
テキスト	○福原俊一 臨床研究の道標 第2版（上下巻） 認定NPO法人 健康医療評価研究機構	
参考書	●友利幸之助、京極真、竹林崇 作業で創るエビデンス 医学書院	
成績の評価方法	レポート100%	
その他		

科目名	作業療法管理学【保健3】		科目名(英語)	作業療法管理学
区分	専門科目(作業療法管理学)		単位数	2.0
担当責任者	五百川和明			
開講年次	3	教室	講義室10	
必修/選択	必修	授業形態	講義	
受講要件				
授業の概要				
<p>作業療法の実践における管理・運営の基礎知識の習得を目指す。内容としては、我が国の保健・医療・福祉制度や診療報酬、介護報酬、リハビリテーション医療における経済学的視点、作業療法実践における職場管理、組織運営のマネジメントに関する知識を習得する。さらに、人権擁護や社会的公正の視点、安全管理、リスクマネジメント、さらには作業療法士の職業倫理や作業療法士教育に関する学習を通して、職場内に留まらず広く地域社会に貢献する専門職としての基礎知識を身に付ける。</p>				
学習目標				
<p>1) 医療保険制度、介護保険制度の概要を理解し、作業療法実践に関連する診療報酬、介護報酬について説明できる。 2) 組織運営のマネジメントの目的と方法を理解し、説明できる。 3) 人権擁護や社会的公正の視点から対象者の社会参加と作業療法支援について説明できる。 4) 作業療法士の職業倫理を理解し、作業療法士の専門職としての役割について説明できる。 5) 作業療法士の教育体系を理解し、質の高い作業療法士を目標とした教育に関して議論できる。</p>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回		作業療法に関連する社会保障制度		五百川和明
第2回		社会保険制度		五百川和明
第3回		医療保険制度		五百川和明
第4回		介護保険制度		五百川和明
第5回		障害者保健福祉施策		五百川和明
第6回		障害者総合支援法		五百川和明
第7回		作業療法の診療報酬		五百川和明
第8回		作業療法の介護報酬		五百川和明
第9回		作業療法部門の管理 開設、施設基準		五百川和明
第10回		作業療法部門の管理・運営1 組織、マネジメント		五百川和明
第11回		作業療法部門の管理・運営2 管理者とリーダーシップ		五百川和明
第12回		作業療法部門の管理・運営3 日常業務、管理運営		五百川和明
第13回		作業療法部門の管理・運営4 職場教育、人材育成		五百川和明
第14回		作業療法部門の管理・運営5 安全管理、リスクマネジメント		五百川和明
第15回		作業療法実践の記録1 記録の目的と種類		五百川和明
第16回		作業療法実践の記録2 作業療法実践の記録 PDCAサイクル		五百川和明

第17回	作業療法実践の記録3 作業療法実践の記録 SOAP	五百川和明
第18回	作業療法実践の記録4 作業療法部門運営の記録	五百川和明
第19回	作業療法実践で求められる報告・連絡・相談	五百川和明
第20回	作業療法実践で求められる報告・連絡・相談（事例演習）	五百川和明
第21回	作業療法実践で求められる物の管理 5 S	五百川和明
第22回	作業療法実践で求められる物の管理 5 S（事例演習）	五百川和明
第23回	対象者の人権擁護、社会的公正	五百川和明
第24回	作業療法士の職業倫理1 （講義）	五百川和明
第25回	作業療法士の職業倫理2 （演習）	五百川和明
第26回	作業療法士の職業倫理3 （演習発表）	五百川和明
第27回	作業療法士教育1 教育体系、養成教育・カリキュラム	五百川和明
第28回	作業療法士教育2 卒後、生涯教育	五百川和明
第29回	作業療法士教育3 実践教育	五百川和明
第30回	作業療法士教育4 臨床実習指導	五百川和明
テキスト	大庭潤平 編著 作業療法管理学入門 医歯薬出版社	
参考書	杉原素子、古川宏、編集主幹 作業療法士プロフェッショナルガイド：作業療法士とは何か 文光堂	
成績の評価方法	定期試験80%、レポート20%	
その他	作業療法実践における重要な科目です。積極的な授業への取り組みを期待します。	

科目名	身体障害作業療法学演習Ⅱ【保健3】	科目名(英語)	身体障害作業療法学演習Ⅱ
区分	専門科目(作業療法治療学)	単位数	1.0
担当責任者	藤田貴昭		
開講年次	3	教室	作業療法実習室1
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
<p>身体障害作業療法学で学んだ知識をもとに、作業療法介入および援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、身体障害作業療法に関する基本的な介入・援助方法について、リスク管理法、関節可動域訓練、筋力増強訓練、協調性訓練、知覚再教育、上肢機能訓練、姿勢保持訓練、作業を活用した治療、自助具の利用、環境整備、及び喀痰吸引等のリスク管理技術を演習や実習を通して学ぶ。さらに、脳血管障害や脊髄損傷の事例をもとに、基本動作訓練や上肢機能訓練、自助具活用等の環境整備の基本的技術についても学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>1) 身体障害作業療法におけるリスク管理に必要な技術を理解するとともに、バイタルサインの測定が行える。 2) 身体障害作業療法の基本的な技術である関節可動域訓練や筋力増強訓練、知覚訓練等を実施できる。 3) 各身体機能障害に対する作業療法の基本的な介入法を実施できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション	藤田貴昭
第2回		身体障害に対する作業療法介入の基礎	藤田貴昭
第3回		リスク管理法	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第4回		バイタルサイン測定	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第5回		関節可動域訓練 骨関節系疾患	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第6回		関節可動域訓練 神経系疾患	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第7回		筋力増強訓練 骨関節系疾患	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第8回		筋力増強訓練 神経系疾患	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第9回		知覚再教育訓練 末梢神経障害	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第10回		知覚再教育訓練 中枢神経障害	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第11回		筋緊張異常に対する介入	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第12回		協調運動障害に対する介入	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第13回		中間試験(実技)	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第14回		中間試験(実技)	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第15回		脳血管障害 基本動作訓練(寝返り、起き上がり、座位)	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第16回		脳血管障害 基本動作訓練(立位、歩行)	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第17回		脳血管障害 上肢機能訓練(徒手的治療)	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第18回		脳血管障害 上肢機能訓練(目的活動)	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第19回		脊髄損傷、頸髄損傷	藤田貴昭、川崎伊

回		基本動作訓練	織、松本大典
第20回		脊髄損傷、頸髄損傷 移動訓練	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第21回		脊髄損傷、頸髄損傷 上肢動作訓練、自助具	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第22回		脊髄損傷、頸髄損傷 環境整備	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第23回		作業を活用した治療 脳血管障害	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第24回		作業を活用した治療 脊髄損傷、神経・筋疾患	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第25回		物理療法 温熱療法、寒冷療法	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第26回		物理療法 電気療法	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第27回		喀痰吸引（講義、実習）	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第28回		喀痰吸引（実習）	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第29回		まとめ	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
第30回		まとめ	藤田貴昭、川崎伊織、松本大典
テキスト	山口昇、玉垣努 編 身体機能作業療法学第3版 標準作業療法学 医学書院 福屋幸子、山岡麗、千崎陽子 吸引・排痰ができる 医学書院		
参考書	なし（配布資料）		
成績の評価方法	中間試験（実技）30%、期末試験（筆記試験）30%、定常点（ループリック）30%、小テスト10%		
その他	ジャージなど動きやすい服装で授業に臨んで下さい。技術を習得するために、学生間でペアを組み実技練習を行います。		

科目名	精神障害作業療法学演習【保健3】	科目名(英語)	精神障害作業療法学演習
区分	作業療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	石川陽子		
開講年次	3	教室	作業療法実習室2,講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件	なし		
授業の概要			
精神障害作業療法学で学んだ作業療法介入方法や理論の知識をもとに、具体的事例に対する作業療法介入の立案と介入の基本的技術の習得を目指す。内容としては、各疾患・障害（統合失調症、気分障害、神経症、摂食障害、パーソナリティ障害、思春期障害、てんかん、物質異存）の特性を考慮した作業療法介入方法の選択やプログラムの立案と実施方法について、事例を活用した問題解決型学習を通して学ぶ。さらに、作業療法を行う上での自己の治療的応用についても学ぶ。			
学習目標			
1) 模擬対象者の情報を解釈し、目標設定に合わせた治療・援助方法を選択することができる。 2) 治療・援助方法の具体的な動きをイメージして遂行することができる。 3) 自分が対象者に与える影響を理解することができる。 4) 他者と意見を交換しながら、視点や知識を増やすことができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		作業療法実践のプロセス1(観察、面接、評価)	石川陽子
第2回		作業療法実践のプロセス2(介入、指導)	同上
第3回		自己の治療的応用	同上
第4回		自己分析	同上
第5回		PBLオリエンテーション ・PBLの理解、疾患別症例(シナリオ)紹介	石川陽子・小笠原牧(作業療法学科)
第6回		PBL(グループワーク) ・学習課題のリストアップ	同上
第7回		PBL(グループワーク) 使用理論選択、評価計画立案	同上
第8回		PBL(グループワーク) 評価結果の解釈と統合	同上
第9回		PBL(グループワーク) プログラム立案	同上
第10回		PBL(グループワーク) まとめ 情報交換、ディスカッション、まとめ、発表準備・練習	同上
第11回		プレゼンテーション(統合失調症:急性期)	同上
第12回		フィードバック	同上
第13回		プレゼンテーション(統合失調症:回復期)	同上
第14回		フィードバック	同上
第15回		プレゼンテーション(統合失調症:維持期)	同上
第16回		フィードバック	同上
第17回		プレゼンテーション(気分(感情)障害)	同上
第18回		フィードバック	同上
第19回		プレゼンテーション(神経症)	同上
第20回		フィードバック	同上
第21回		プレゼンテーション(摂食障害)	同上

回			
第22回		フィードバック	同上
第23回		プレゼンテーション（パーソナリティ障害）	同上
第24回		フィードバック	同上
第25回		プレゼンテーション（思春期障害）	同上
第26回		フィードバック	同上
第27回		プレゼンテーション（てんかん）	同上
第28回		フィードバック	同上
第29回		プレゼンテーション（物質依存）	同上
第30回		フィードバック	同上
テキスト	作業療法学全書 作業治療学2「精神障害」 協同医書出版		
参考書	精神機能作業療法学 医学書院 精神科作業療法の理論と技術 メジカルビュー社 精神障害と作業療法（新版） 三輪書店 ひとと作業・作業活動（新版） 三輪書店		
成績の評価方法	成績評価方法：定期試験40%、レポート60%		
その他			

科目名	老年期障害作業療法学演習【保健3】	科目名(英語)	老年期障害作業療法学演習
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	曾根稔雅		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件	なし		
授業の概要			
<p>老年期障害作業療法学で学んだ知識をもとに、老年期障害及び認知症の作業療法介入及び援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、老年期障害作業療法の戦略を学び、老年期で生じやすい寝たきりや閉じこもり、整形疾患、認知症、終末期医療など、老年期の特性を考慮した作業療法介入法の選択や作業療法プログラムの立案と実施方法について、事例を活用した問題解決型学習を通して学ぶ。さらに、介護保険制度における効果的なケアプラン、生活行為向上マネジメントについても理解を深める。</p>			
学習目標			
<p>1) 老年期障害作業療法の戦略を理解する。 2) 老年期の各疾患・障害の特性を考慮した作業療法プログラムの立案と実施方法を理解する。 3) 介護保険制度における効果的なケアプランとサービス利用について理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション、老年期作業療法の実践プロセス	曾根稔雅
第2回		介護保険制度におけるケアプランと生活行為向上マネジメント ①概要と考え方	同上
第3回		介護保険制度におけるケアプランと生活行為向上マネジメント ②プロセス	同上
第4回		介護保険制度におけるケアプランと生活行為向上マネジメント ③事例	同上
第5回		老年期障害作業療法の戦略 クライアントの文脈の理解と尊重	同上
第6回		老年期障害作業療法の戦略 作業の周回準備	同上
第7回		老年期障害作業療法の戦略 作業の習慣化、生活リズムの構築	同上
第8回		老年期障害作業療法の戦略 環境の調整	同上
第9回		老年期障害作業療法の実際 寝たきり高齢者の評価	同上
第10回		老年期障害作業療法の実際 寝たきり高齢者に対するプログラム	同上
第11回		老年期障害作業療法の実際 閉じこもり高齢者(虚弱)の評価	同上
第12回		老年期障害作業療法の実際 閉じこもり高齢者(虚弱)に対するプログラム	同上
第13回		老年期障害作業療法の実際	同上

回		整形疾患の評価	
第14回		老年期障害作業療法の実際 整形疾患に対するプログラム	同上
第15回		老年期障害作業療法の実際 認知症高齢者の評価	同上
第16回		老年期障害作業療法の実際 認知症高齢者に対するプログラム	同上
第17回		老年期障害作業療法の実際 終末期の高齢者の評価	同上
第18回		老年期障害作業療法の実際 終末期の高齢者に対するプログラム	同上
第19回		事例検討（PBL） 事例検討の進め方、事例（寝たきり、閉じこもり、整形疾患、認知症、終末期）の提示	曾根稔雅、川又寛徳
第20回		事例検討（PBL） グループワーク：事例の読み込み	同上
第21回		事例検討（PBL） グループワーク：課題の抽出と整理	同上
第22回		事例検討（PBL） グループワーク：資料収集	同上
第23回		事例検討（PBL） グループワーク：作業療法プログラムの立案	同上
第24回		事例検討（PBL） グループワーク：資料作成	同上
第25回		発表・討議 A、Bグループ	同上
第26回		発表・討議 C、Dグループ	同上
第27回		発表・討議 E、Fグループ	同上
第28回		発表・討議 G、Hグループ	同上
第29回		発表・討議 I、Jグループ	同上
第30回		総括	同上
テキスト	○作業治療学4 老年期（作業療法学全書）改訂第3版 村田和香（編） 協同医書出版 ○高齢期作業療法10の戦略 村田和香 医学書院		
参考書	●高齢期領域の作業療法 第2版 山田孝（監修） 中央法規 ●作業療法マニュアル 生活行為向上マネジメント 改訂第3版 日本作業療法士協会		

成績の評価方法	定期試験50%、レポート50%
その他	

科目名	発達障害作業療法学演習【保健3】	科目名(英語)	発達障害作業療法学演習
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	倉澤茂樹		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件	なし		
授業の概要			
<p>発達障害作業療法学で学んだ知識をもとに、発達障害の作業療法介入および援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、神経発達学的治療法、装具療法・座位保持装置、感覚統合療法、応用行動分析、TEACCHプログラム、ペアレントトレーニングについて、理論やエビデンスを学ぶとともに、事例を活用した演習や実習を通して理解を深める。さらに、発達障害の特性やライフステージを考慮した学校コンサルテーションや地域療育への関わりについても学習する。</p>			
学習目標			
<p>1) 対象児(者)のライフステージに応じた作業療法ニーズがわかる。 2) 代表的な作業療法アプローチについて概要が説明できる。 3) 作業療法アプローチの基本的な考え方に沿って評価および治療計画が立案できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		神経発達学的治療法① 理論的基盤・エビデンスなど	倉澤茂樹
第2回		神経発達学的治療法② 評価・介入など	同上
第3回		神経発達学的治療法③ 事例演習(課題点の整理)	倉澤茂樹・田中善信
第4回		神経発達学的治療法④ 事例演習(介入方法の検討)	同上
第5回		装具療法・座位保持装置① 理論的基盤・エビデンスなど	倉澤茂樹
第6回		装具療法・座位保持装置② 評価・介入など	同上
第7回		装具療法・座位保持装置③ 事例演習(課題点の整理)	倉澤茂樹・田中善信
第8回		装具療法・座位保持装置④ 事例演習(介入方法の検討)	同上
第9回		感覚統合療法① 理論的基盤・エビデンスなど	倉澤茂樹
第10回		感覚統合療法② 評価・介入など	同上
第11回		感覚統合療法③ 事例演習(課題点の整理)	倉澤茂樹・田中善信
第12回		感覚統合療法④ 事例演習(介入方法の検討)	同上

第13回	応用行動分析① 理論的基盤・エビデンスなど	倉澤茂樹
第14回	応用行動分析② 評価・介入など	同上
第15回	応用行動分析③ 事例演習（課題点の整理）	倉澤茂樹・田中善信
第16回	応用行動分析④ 事例演習（介入方法の検討）	同上
第17回	TEACCHプログラム① 理論的基盤・エビデンスなど	倉澤茂樹
第18回	TEACCHプログラム② 評価・介入など	同上
第19回	TEACCHプログラム③ 事例演習（課題点の整理）	倉澤茂樹・田中善信
第20回	TEACCHプログラム④ 事例演習（介入方法の検討）	同上
第21回	ペアレントトレーニング① 理論的基盤・エビデンスなど	倉澤茂樹
第22回	ペアレントトレーニング② 評価・介入など	同上
第23回	ペアレントトレーニング③ 事例演習（課題点の整理）	倉澤茂樹・田中善信
第24回	ペアレントトレーニング④ 事例演習（介入方法の検討）	同上
第25回	作業療法士による学校コンサルテーション① 感覚プロファイル、行動コンサルテーション	倉澤茂樹
第26回	作業療法士による学校コンサルテーション② 実践報告	同上
第27回	作業療法士による学校コンサルテーション③ 事例演習（課題点の整理）	倉澤茂樹・田中善信
第28回	作業療法士による学校コンサルテーション④ 事例演習（介入方法の検討）	同上
第29回	地域療育における作業療法士の関わり① 障害児通所支援の現状と役割	倉澤茂樹
第30回	総括	同上
テキスト	〇イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社 辛島千恵子 編集	
参考書	●標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版 医学書院 加藤寿宏 編集 *2020年度改定予定	

	<ul style="list-style-type: none"> ●標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 医学書院 富田豊 編集 ●標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院 能登真一他 編集
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	高次脳機能障害作業療法学演習【保健3】	科目名（英語）	高次脳機能障害作業療法学演習
区分	専門科目（作業療法治療学）	単位数	1.0
担当責任者	川崎伊織		
開講年次	3	教室	講義室10
必修／選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
高次脳機能障害作業療法学で学んだ知識をもとに、高次脳機能障害の作業療法介入及び指導・援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、注意障害、記憶障害、失行症、失認症、失語症、遂行機能障害の各障害における作業行動上の課題に対する作業療法の具体的介入法及び指導・援助法、高次脳機能障害者の社会参加や復職、就労に向けた作業療法や環境整備（人的面、物的面、制度的面）に関して、事例を活用した演習を通して理解を深める。			
学習目標			
1) 高次脳機能障害に対する作業療法の一連の過程を理解し、説明できる。 2) 高次脳機能障害と作業行動上の問題に対する作業療法介入について議論し、実践的介入について説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容（キーワード等）	担当教員
第1回		オリエンテーション 高次脳機能とは	川崎伊織 (作業療法学科)
第2回		高次脳機能障害に対するリハビリテーション概説	川崎伊織 (作業療法学科)
第3回		脳画像所見	川崎伊織 (作業療法学科)
第4回		脳画像と高次脳機能障害（演習）	川崎伊織 (作業療法学科)
第5回		注意障害のリハビリテーション・作業療法	川崎伊織 (作業療法学科)
第6回		注意障害者の社会参加支援	川崎伊織 (作業療法学科)
第7回		注意障害の作業療法（演習）	川崎伊織 (作業療法学科)
第8回		注意障害者の作業療法（発表、まとめ）	川崎伊織 (作業療法学科)
第9回		記憶障害のリハビリテーション・作業療法	川崎伊織 (作業療法学科)
第10回		記憶障害者の社会参加支援	川崎伊織 (作業療法学科)
第11回		記憶障害の作業療法（演習）	川崎伊織 (作業療法学科)
第12回		記憶障害者の作業療法（発表、まとめ）	川崎伊織 (作業療法学科)
第13回		失語症のリハビリテーション・社会参加支援	川崎伊織

回			(作業療法学科)
第14回		失語症の作業療法 (演習、発表)	川崎伊織 (作業療法学科)
第15回		失行症のリハビリテーション・作業療法	川崎伊織 (作業療法学科)
第16回		失行症者の社会参加支援	川崎伊織 (作業療法学科)
第17回		失行症の作業療法 (演習)	川崎伊織 (作業療法学科)
第18回		失行症の作業療法 (発表、まとめ)	川崎伊織 (作業療法学科)
第19回		失認症のリハビリテーション・作業療法	川崎伊織 (作業療法学科)
第20回		失認症者の社会参加支援	川崎伊織 (作業療法学科)
第21回		失認症の作業療法 (演習)	川崎伊織 (作業療法学科)
第22回		失認症の作業療法 (発表、まとめ)	川崎伊織 (作業療法学科)
第23回		半側空間無視のリハビリテーション・作業療法	川崎伊織 (作業療法学科)
第24回		半側空間無視者の社会参加支援	川崎伊織 (作業療法学科)
第25回		半側空間無視の作業療法 (演習)	川崎伊織 (作業療法学科)
第26回		半側空間無視の作業療法 (発表、まとめ)	川崎伊織 (作業療法学科)
第27回		遂行機能障害のリハビリテーション・作業療法	川崎伊織 (作業療法学科)
第28回		遂行機能障害者の社会参加支援	川崎伊織 (作業療法学科)
第29回		遂行機能障害の作業療法 (演習)	川崎伊織 (作業療法学科)
第30回		遂行機能障害の作業療法 (発表、まとめ)	川崎伊織 (作業療法学科)
テキスト	能登真一編 標準作業療法学「高次脳機能障害作業療法学」 医学書院		
参考書	前田眞治 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 「脳画像」 医学書院		
成績の評価方法	定期試験50%、レポート50%		
その他			

科目名	臨床技能実習Ⅱ【保健3】	科目名(英語)	臨床技能実習Ⅱ
区分	作業療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	浅尾章彦		
開講年次	3	教室	作業療法実習室1,講義室
必修/選択	必修	授業形態	実習
受講要件	なし		
授業の概要			
臨床実習Ⅳで求められる、作業療法評価及び治療介入に関する知識、技術及び態度に関する統合的理解と技術の習得を目指す。内容としては、2年次までに学修してきた知識や技術を再確認・整理しながら、臨床事例を基に作業療法評価及び介入の視点、作業療法評価・介入に必要な技術、態度を学ぶ。さらに、その学習状況の確認として客観的臨床能力試験(OSCE)を行い、臨床実習Ⅳに向けた準備を行う。臨床実習Ⅳの後は実習経験の振り返りを行い、作業療法介入の意義と実践で求められる知識、技術、態度についての理解を深める。授業は演習グループを構成し、作業療法評価及び介入に関する演習および実習を行う。			
学習目標			
1) 作業療法評価及び治療介入の視点について説明できる。 2) 作業療法評価及び治療介入に必要な知識、技術、態度を身につける。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション 臨床実習Ⅳの学習目標、学生に求められる知識・技術・態度	浅尾章彦(作業療法学科)
第2回		クリニカルクラークシップ、臨床実習で許容される臨床技能水準	同上
第3回		事例演習(グループ演習) 疾患と症状の理解	浅尾章彦・川崎伊織・石川陽子・川又寛徳・田中善信(作業療法学科)
第4回		事例演習(グループ演習) 対象者ニーズの把握	同上
第5回		事例演習(グループ演習) 作業療法評価項目の抽出	同上
第6回		事例演習(グループ演習) 作業療法評価計画	同上
第7回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 ROM検査	同上
第8回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 MMT検査	同上
第9回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 知覚検査	同上
第10回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 上肢機能検査	同上
第11回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 面接法(精神障害事例)	同上
第12回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 作業・行動観察	同上
第13回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施 統合失調症の評価	同上
第14回		事例演習(グループ実習) 作業療法評価実施	同上

		気分（感情）障害の評価	
第15回		事例演習（グループ実習） 作業療法評価実施 MMSE、HDS-R	同上
第16回		事例演習（グループ実習） 作業療法評価実施 興味・関心に関する検査	同上
第17回		事例演習（グループ演習） 作業療法評価実施 ADL検査（BI、FIM）	同上
第18回		事例演習（グループ演習） 作業療法評価実施 IADL検査	同上
第19回		事例演習（グループ実習） 作業療法評価実施 動作・作業の模倣 * 19-22：2年生合同授業	同上
第20回		事例演習（グループ実習） 作業療法評価実施 動作・作業の観察、記録	同上
第21回		事例演習（グループ実習） 作業療法評価実施 動作分析	同上
第22回		事例演習（グループ実習） 作業療法評価実施 作業分析	同上
第23回		事例演習（グループ演習） 作業療法評価の解釈、全体像の把握	同上
第24回		事例演習（グループ演習） 作業療法目標・治療プログラムの立案	同上
第25回		客観的臨床能力試験 基本的臨床技能（面接、作業療法評価・介入、態度）	五百川和明・倉澤茂樹・曾根稔雅・澄川幸志・藤田貴昭・石川陽子・川又寛徳・浅尾章彦・川崎伊織・三橋佑平・田中善信・木村夏実・松本大典・小笠原牧（作業療学科）
第26回		客観的臨床能力試験 基本的臨床技能（面接、作業療法評価・介入、態度）	同上
第27回		客観的臨床能力試験 基本的臨床技能（面接、作業療法評価・介入、態度）	同上
第28回		客観的臨床能力試験 基本的臨床技能（面接、作業療法評価・介入、態度）	同上
第29回		客観的臨床能力試験 基本的臨床技能（面接、作業療法評価・介入、態度）	同上
第30回		客観的臨床能力試験 基本的臨床技能（面接、作業療法評価・介入、態度）	同上
第31回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入の意義	浅尾章彦・川崎伊織・石川陽子・川又寛徳・田中善信（作業療学科）
第32回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 対象者のニーズと作業療法目標	同上
第33回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習	同上

		作業療法評価計画	
第34回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 対象者の課題選択、作業療法目標設定の考え方	同上
第35回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法治療プログラム設定の考え方	同上
第36回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法治療計画の考え方	同上
第37回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入補助におけるポイント（基本的態度）	同上
第38回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入補助におけるポイント（基本的技能）	同上
第39回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入の実施上のポイント（基本的態度）	同上
第40回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入の実施上のポイント（基本的知識）	同上
第41回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入の実施上のポイント（基本的技能）	同上
第42回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入の実施上のポイント（臨床推論）	同上
第43回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入における多職種連携、協業（対象者の理解）	同上
第44回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入における多職種連携、協業（リハビリテーション目標の設定）	同上
第45回		臨床実習Ⅳの振り返り グループ演習 作業療法介入における多職種連携、協業（作業療法介入）	同上
テキスト	2年次までに使用したテキスト		
参考書	なし（資料配布）		
成績の評価方法	客観的臨床能力試験80%、レポート20%		
その他	1）客観的臨床能力試験では各項目で60%以上の得点で合格とする。 2）客観的臨床能力試験に不合格となった場合、1週間後に再試験を1回に限り実施する。		

科目名	認知症・介護予防作業療法論演習【保健3】	科目名(英語)	認知症・介護予防作業療法論演習
区分	専門科目(作業療法治療学)	単位数	1.0
担当責任者	林博史		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	選択	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
<p>高齢化の進展と相まって社会問題化している認知症対策及び介護予防に関して、作業療法の実践と効果を学び、新たな作業療法戦略を検討する力を身に付けることを目指す。内容としては、予防・ヘルスプロモーションの概念、国内外の動向、最新の予防作業療法のエビデンスと実践例の紹介、地域包括ケアシステムの概観と作業療法士の役割、福島県での認知症及び介護予防事業の現状等を学び、更により有効な予防作業療法および戦略について検討する。</p>			
学習目標			
<p>1) 予防・ヘルスプロモーションの概念を理解する。 2) 認知症や介護状態に至る原因や発生機序について理解する。 3) 地域での認知症及び介護予防事業の現状について理解する。 4) 作業療法における認知症対策・予防、介護予防の最新の知見を理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		ガイダンス、根拠に基づく認知症・介護予防作業療法の概要	曾根稔雅
第2回		予防・ヘルスプロモーションの概念	曾根稔雅
第3回		予防・ヘルスプロモーションの背景	曾根稔雅
第4回		健康行動理論 KAPモデル、健康信念モデル、トランスセオリアルモデル	曾根稔雅
第5回		健康行動理論 社会的認知理論、健康生成モデル、SOC	曾根稔雅
第6回		健康行動理論 プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング、行動経済学	曾根稔雅
第7回		地域包括ケアシステム 概要	曾根稔雅
第8回		地域包括ケアシステム 背景	曾根稔雅
第9回		地域包括ケアシステム 作業療法士の役割	曾根稔雅
第10回		地域包括ケアシステム 作業療法士の取り組み	曾根稔雅
第11回		予防作業療法のエビデンス 海外	川又寛徳
第12回		予防作業療法のエビデンス 日本	川又寛徳
第13回		予防作業療法のプログラム開発 計画立案	川又寛徳
第14回		予防作業療法のプログラム開発 実施、評価	川又寛徳
第15回		予防作業療法の実践例 ポピュレーション・アプローチの考え方	川又寛徳
第16回		予防作業療法の実践例 ポピュレーション・アプローチの事例	川又寛徳
第17回		予防作業療法の実践例 ハイリスク・アプローチの考え方	小林法一(首都大学東京)
第18回		予防作業療法の実践例 ハイリスク・アプローチの事例	小林法一(首都大学東京)

第19回		認知症の症候と関連因子	林博史
第20回		認知症に対する薬物治療	林博史
第21回		認知症に対するリハビリテーション① 認知的介入	林博史
第22回		認知症に対するリハビリテーション② 運動介入	林博史
第23回		認知症に対するリハビリテーション③ 栄養介入	林博史
第24回		認知症に対するリハビリテーション④ 音楽療法、アロマセラピー	林博史
第25回		認知症に対するリハビリテーション⑤ ADL介入	川又寛徳
第26回		認知症に対するリハビリテーション⑥ 生活リズム	川又寛徳
第27回		認知症に対するリハビリテーション⑦ 家族介護支援	川又寛徳
第28回		認知症に対するリハビリテーション⑧ 福祉用具、環境面への介入	川又寛徳
第29回		認知症に対する作業療法 軽度認知症（MCI）と予防、認知症初期集中支援	川又寛徳
第30回		認知症に対する作業療法 福島県作業療法士会の取り組み、総括	川又寛徳
テキスト	Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション 田平隆行/田中寛之（編）医学書院 地域リハビリテーション学 第2版 重森健太/横井賀津志（編） 羊土社		
参考書	健康行動理論による研究と実践 一般社団法人日本健康教育学会（編） 医学書院		
成績の評価方法	定期試験80%、レポート20%		
その他			

科目名	身体障害作業療法学特論【保健3】		科目名(英語)	身体障害作業療法学特論
区分	専門科目(作業療法治療学)		単位数	1.0
担当責任者	五百川和明			
開講年次	3	教室	講義室10	
必修/選択	選択	授業形態	講義	
受講要件				
授業の概要				
<p>内部障害とがんの作業療法について、臨床上必要な知識・技術の習得を目指す。内容としては、呼吸器機能障害、循環機能障害、重複障害および廃用症候群に対する作業療法の実践、さらに内部障害者の日常生活活動と余暇に対する作業療法について学ぶ。さらに、がん(乳がん、肺がん、消化器系がん、骨・軟部腫瘍、造血器腫瘍、脳腫瘍、小児がん等)の作業療法実践とリスク管理や福島県作業療法士会が参画しているがんのチャリティー事業を通して、がん患者の社会参加について理解を深める。</p>				
学習目標				
<p>1) 呼吸器障害、循環機能障害、内臓機能障害、およびがん等の障害像を理解し、説明できる。 2) 内部障害に対する作業療法評価を理解し、各評価項目を列挙し説明できる。 3) 内部障害に対する作業療法の介入について、基本的な作業療法目標と作業療法プログラムを理解し、説明できる。</p>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員	
第1回		内部障害とは 内部障害の定義と種類	五百川和明(作業療法学科)	
第2回		内部障害者の日常生活面での課題	三橋佑平(作業療法学科)	
第3回		廃用症候群と作業療法士の役割	三橋佑平(作業療法学科)	
第4回		内部障害作業療法の実践① 呼吸器機能障害者の作業療法	鈴木真弓(埼玉医科大学)	
第5回		内部障害作業療法の実践② 循環機能障害者の作業療法	鈴木真弓(埼玉医科大学)	
第6回		内部障害作業療法の実践③ 重複障害者の作業療法	鈴木真弓(埼玉医科大学)	
第7回		内部障害作業療法の実践④ 廃用症候群の作業療法	佐藤瑞枝(竹田総合病院)	
第8回		内部障害作業療法の実践⑤ 日常生活活動と余暇	佐藤瑞枝(竹田総合病院)	
第9回		がん作業療法の実践① 作業療法士の役割	佐藤瑞枝(竹田総合病院)	
第10回		がん作業療法の実践② 乳がん、婦人科系がん	華井明子(国立がん研究センター中央病院)	
第11回		がん作業療法の実践③ 肺がん、消化器系がん	華井明子(国立がん研究センター中央病院)	
第12回		がん作業療法の実践④ 造血器腫瘍	華井明子(国立がん研究センター中央病院)	
第13回		がん作業療法の実践⑤ 脳腫瘍	高橋勝(附属リハビリテーションセンター)	
第14回		がん作業療法の実践⑥ 骨・軟部腫瘍	高橋勝(附属リハビリテーションセンター)	
第15回		がん患者の社会参加 福島県作業療法士会の活動(リレーフォーライフ)	五百川和明(作業療法学科)	
テキスト	上月正博編 新編内部障害のリハビリテーション 医歯薬出版			

	辻哲也編 がんリハビリテーションマニュアル 医学書院
参考書	
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	生活環境整備学演習【保健3】	科目名(英語)	生活環境整備学演習
区分	必須	単位数	1.0
担当責任者	澄川幸志		
開講年次	3	教室	日常生活活動実習室,講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件	なし		
授業の概要			
福祉機器や住環境整備について、対象者の地域社会への「参加」をテーマに、社会資源や制度、作業療法の具体的な方法について基本的な知識の習得を目指す。内容としては、福祉機器や住環境整備の概念や歴史、社会資源・各種制度、高齢者や各種障害・疾患の特性に応じた福祉機器の導入及び住環境整備の視点・考え方とその具体的方法、更にはユニバーサルデザインによる福祉のまちづくりの視点について学び、グループワークによる事例検討を通して理解を深める。			
学習目標			
1) 福祉機器や住環境整備の概念や歴史、社会資源・各種制度を理解する。 2) 各種障害・疾患の特性に応じた福祉機器の導入及び住環境整備の視点・考え方とその具体的方法を理解する。 3) ユニバーサルデザインによる福祉のまちづくりの視点について理解する。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション、福祉機器や住環境整備の概念、歴史	澄川幸志(作業療法学科)
第2回		ICFの環境因子と福祉機器、住環境整備	同上
第3回		福祉機器適合と住環境整備の基本姿勢	同上
第4回		福祉機器と住環境整備に関わる職種や制度	同上
第5回		福祉機器適合と住環境整備の流れ	同上
第6回		福祉機器のリスクマネジメント	同上
第7回		建築の基礎知識、住宅の機能、日本の住宅の特徴	澄川幸志・川又寛徳(作業療法学科)
第8回		図面の書き方 講義	同上
第9回		図面の書き方 演習	同上
第10回		福祉機器適合、住環境整備 起居・移乗動作	澄川幸志
第11回		福祉機器適合、住環境整備 移動(杖)	同上
第12回		福祉機器適合、住環境整備 姿勢・PSB	同上
第13回		福祉機器適合、住環境整備 移動(車いす)	同上
第14回		福祉機器適合、住環境整備 移動(電動車いす)	同上
第15回		福祉機器適合、住環境整備 食事	同上
第16回		福祉機器適合、住環境整備 更衣・整容	同上
第17回		福祉機器適合、住環境整備 入浴・排せつ	同上
第18回		福祉機器適合、住環境整備 家事、余暇活動	同上
第19回		福祉機器適合、住環境整備 コミュニケーション(スイッチ、環境制御装置)	同上
第20回		福祉機器適合、住環境整備 介護ロボット	同上
第21回		疾患別の福祉機器適合、住環境整備(グループワーク)①グループワークの	澄川幸志・川又寛

回		進め方、課題提示	徳（作業療法学科）
第22回		疾患別の福祉機器適合、住環境整備（グループワーク）②課題の検討、資料収集	同上
第23回		疾患別の福祉機器適合、住環境整備（グループワーク）③介入計画の立案	同上
第24回		疾患別の福祉機器適合、住環境整備（グループワーク）④発表資料の作成	同上
第25回		福祉のまちづくり 概念	橋本美芽（東京都立大学）
第26回		福祉のまちづくり 基本計画と手法	同上
第27回		福祉のまちづくり 事例	同上
第28回		発表 A～Dグループ	澄川幸志・川又寛 徳（作業療法学科）
第29回		発表 E～Hグループ	同上
第30回		まとめ	同上
テキスト	作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備（作業療法学全書）改訂第3版 木之瀬隆（編）協同医書出版		
参考書	OT・PTのための住環境整備論 野村歡・橋本美芽（編）三輪書店		
成績の評価方法	定期試験50%、レポート50%		
その他			

科目名	地域生活・社会参加支援論【保健3】	科目名(英語)	地域生活・社会参加支援論
区分	専門科目(地域作業療法学)	単位数	1.0
担当責任者	曾根稔雅		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>仕事や遊び、スポーツ、芸術活動など、対象者の地域生活や社会参加の様々な形態に対する支援や環境調整について、その基本的知識の習得を目指す。内容としては、職業生活、障害者スポーツ、地域包括ケアシステムにおける活動、芸術活動などの社会参加を支援する際に必要な基本知識について学ぶ。さらに、地域で実践している専門職や当事者から支援の実際について学び、対象者のQOLを高めるための社会参加を促進する作業療法について理解を深める。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<p>1) 仕事や遊び、スポーツ、芸術活動などの地域生活・社会参加を支援する際に必要な基本知識について理解する。 2) 地域で社会参加支援を実践している作業療法士や他専門職、障害当事者から社会参加とその支援の実際について話を聞き、社会参加を促進する作業療法について理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション 地域生活・社会参加とは	曾根稔雅
第2回		職業リハビリテーション 職業生活援助の概説、理論、制度、関連法規	曾根稔雅
第3回		職業生活援助の評価、計画、実施のプロセス	曾根稔雅
第4回		職業生活援助の実際(精神障害者、発達障害者、高齢者) 相談、コンサルテーション	渡邊忠義(NPO 法人アイ・キャン)
第5回		職業生活援助の実際(精神障害者、発達障害者、高齢者) 就労・生産活動の支援	渡邊忠義(NPO 法人アイ・キャン)
第6回		職業生活援助の実際(精神障害者、発達障害者、高齢者) 交流・地域生活支援	渡邊忠義(NPO 法人アイ・キャン)
第7回		障害者とスポーツ: ソーシャルフットボール(精神障害者のスポーツへの参加)	大角浩平(ひだクリニック)
第8回		障害がある方のゲームアクセシビリティ	田中栄一(国立病院機構八雲病院)
第9回		障害者とスポーツ: eスポーツ(重度障害者のスポーツへの参加)	田中栄一(国立病院機構八雲病院)
第10回		地域包括ケアの実際: いわき市の取り組み(概要、経緯、つどいの場、シルバリーリハビリ体操)	猪狩僚(いわき市地域包括支援推進課)
第11回		地域包括ケアの実際: いわき市の取り組み(いごくフェス、コミュニティ食堂などの取り組みと専門職、特にOTへの期待)	猪狩僚(いわき市地域包括支援推進課)
第12回		子どもキャンプについて(重度障害をもつ子供の参加)	五百川和明
第13回		障害と芸術	五百川和明
第14回		障害者のQOL	曾根稔雅
第15回		総括	曾根稔雅
テキスト	地域作業療法学 作業療法学全書 第13巻 改訂第3版 協同医書出版 作業療法技術学4 職業関連活動(作業療法学全書) 改訂第3版 平賀 昭信、岩瀬義昭(編) 協同医書		

	出版
参考書	なし
成績の評価方法	定期試験30%、レポート70%
その他	

科目名	地域作業療法学【保健3】	科目名(英語)	地域作業療法学
区分	専門科目(地域作業療法学)	単位数	1.0
担当責任者	曾根稔雅		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>地域リハビリテーションの理念をもとに、地域作業療法の視点、役割、作業療法の実践、在宅生活支援のための制度やシステムに関する知識の習得を目指す。内容としては、地域医療、地域リハビリテーションの理念、地域作業療法の役割、更には地域包括ケアシステムや介護保険制度等の社会制度、地域における社会資源、対象者本人や家族、多職種との協業・連携等について、地域リハビリテーション・作業療法の具体的な取り組みを含め学習する。</p>			
学習目標			
<p>1) 地域、地域リハビリテーション、地域作業療法の概念について理解する。 2) 地域包括ケアシステムや介護保険制度等の社会制度、社会資源を理解する。 3) 地域作業療法の役割や対象について理解する。 4) 地域リハビリテーション・作業療法のプロセスを理解する。 5) 実施場面別の地域作業療法を理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		地域作業療法の概説 地域とは、地域医療、地域リハビリテーション	曾根稔雅
第2回		パラダイム転換 医学モデルから社会モデルへ	曾根稔雅
第3回		地域作業療法の役割と対象	曾根稔雅
第4回		地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション支援体制	曾根稔雅
第5回		地域作業療法の関連法規、資源、制度(1): 障害者総合支援法	曾根稔雅
第6回		地域作業療法の関連法規、資源、制度(2): 介護保険法	曾根稔雅
第7回		ケアマネジメントと生活行為向上マネジメント	曾根稔雅
第8回		地域作業療法における多職種連携、リスク管理	曾根稔雅
第9回		地域作業療法に関連する理論	曾根稔雅
第10回		地域作業療法のプログラム 計画、評価	曾根稔雅
第11回		地域作業療法の実際 通所リハビリテーション	曾根稔雅
第12回		地域作業療法の実際 訪問リハビリテーション	曾根稔雅
第13回		地域作業療法の実際 行政	曾根稔雅
第14回		地域作業療法の実際 その他	曾根稔雅
第15回		総括	曾根稔雅
テキスト	地域作業療法学 作業療法学全書 第13巻 改訂第3版 協同医書出版		
参考書	地域に根ざした作業療法 理論と実践 ScaffaME (山田孝・監訳) 協同医書出版		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	地域作業療法学演習【保健3】	科目名(英語)	地域作業療法学演習
区分	専門科目(地域作業療法学)	単位数	1.0
担当責任者	曾根稔雅		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
<p>地域作業療法学で学んだ知識をもとに、福島県における地域医療および健康面の課題に応じた作業療法を実践するために必要な知識と技術の習得を目指す。内容としては、福島県作業療法士会の歴史や取り組み、福島県で実践されている地域医療、地域作業療法について、様々な実施場面で活躍する作業療法士の講義を通して、当該地域での作業療法士の役割や地域固有の課題等について理解を深める。また、福島県における様々な健康面の課題について問題解決型学習を通して理解を深める。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<p>1) 福島県で実践されている地域作業療法について、当該地域での作業療法士の役割や地域固有の課題等について理解する。</p> <p>2) 地域作業療法学等、これまでに学んだことを活かして、福島県における健康課題に対する地域作業療法計画を立案し、発表する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		福島県における地域医療、健康面の課題	曾根稔雅
第2回		福島県における地域包括ケアシステムの現状	曾根稔雅
第3回		福島県における地域リハビリテーション体制の現状	曾根稔雅
第4回		福島県における地域作業療法の実際(1):入所・通所・訪問の一体的なサービスの概要	川又寛徳
第5回		福島県における地域作業療法の実際(1):入所・通所・訪問の一体的なサービスの事例	川又寛徳
第6回		福島県における地域作業療法の実際(2):行政における作業療法士の役割	長谷部真奈美(只見町介護老人保健施設こぶし苑)
第7回		福島県における地域作業療法の実際(3):僻地における作業療法士の役割	長谷部真奈美(只見町介護老人保健施設こぶし苑)
第8回		福島県における地域作業療法の実際(3):僻地における作業療法士の取り組み	長谷部真奈美(只見町介護老人保健施設こぶし苑)
第9回		福島県における地域作業療法の実際(4):地域包括支援センターにおける作業療法士の役割	榎森智絵(竹田総合病院)
第10回		福島県における地域作業療法の実際(4):地域包括支援センターにおける作業療法士の取り組み	榎森智絵(竹田総合病院)
第11回		福島県における地域作業療法の実際(5):認知症初期集中支援チームにおける作業療法士の役割	木田佳和(介護老人保健施設榎葉ときわ苑)
第12回		福島県における地域作業療法の実際(5):認知症初期集中支援チームにおける作業療法士の取り組み	木田佳和(介護老人保健施設榎葉ときわ苑)
第13回		福島県における地域作業療法の実際(6):精神障害領域における作業療法士の役割	渡邊忠義(NPO法人アイ・キャン)
第14回		福島県における地域作業療法の実際(6):精神障害領域における作業療法士の取り組み	渡邊忠義(NPO法人アイ・キャン)
第15回		福島県における地域作業療法の実際(6):精神障害領域における作業療法士の取り組み	渡邊忠義(NPO法人アイ・キャン)

第16回	福島県における地域作業療法の実際（7）：発達障害領域における作業療法士の役割	岡本宏二（一般社団法人ふくしまをリハビリで元気にする会）
第17回	福島県における地域作業療法の実際（7）：発達障害領域における作業療法士の取り組み	岡本宏二（一般社団法人ふくしまをリハビリで元気にする会）
第18回	福島県における地域作業療法の実際（8）：福島県作業療法士会①歴史	長谷川敬一（竹田総合病院）
第19回	福島県における地域作業療法の実際（8）：福島県作業療法士会②活動の概要	長谷川敬一（竹田総合病院）
第20回	福島県における地域作業療法の実際（8）：福島県作業療法士会③震災時の対応	長谷川敬一（竹田総合病院）
第21回	福島県における健康面の課題（PBL） ①課題の提示、グループワークの進め方	曽根稔雅、川又寛徳
第22回	福島県における健康面の課題（PBL） ②解決策の検討	曽根稔雅、川又寛徳
第23回	福島県における健康面の課題（PBL） ③資料収集	曽根稔雅、川又寛徳
第24回	福島県における健康面の課題（PBL） ④支援計画の立案	曽根稔雅、川又寛徳
第25回	福島県における健康面の課題（PBL） ⑤発表資料の作成	曽根稔雅、川又寛徳
第26回	福島県における健康面の課題（PBL） ⑥成果報告：A、Bグループ	曽根稔雅、川又寛徳
第27回	福島県における健康面の課題（PBL） ⑥成果報告：C、Dグループ	曽根稔雅、川又寛徳
第28回	福島県における健康面の課題（PBL） ⑥成果報告：E、Fグループ	曽根稔雅、川又寛徳
第29回	福島県における健康面の課題（PBL） ⑥成果報告：G、Hグループ	曽根稔雅、川又寛徳
第30回	総括	曽根稔雅、川又寛徳
テキスト	地域作業療法学 作業療法学全書 第13巻 改訂第3版 協同医書出版	
参考書	地域に根ざした作業療法 理論と実践 ScaffaME（山田孝・監訳） 協同医書出版	
成績の評価方法	定期試験20%、レポート80%	
その他		

科目名	臨床実習Ⅳ（作業）【保健3】	科目名（英語）	臨床実習Ⅳ（作業）
区 分	専門科目（臨床実習）	単位数	8.0
担当責任者	倉澤茂樹		
開講年次	3	教室	臨床実習施設
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件	3年前期の必修科目の単位を修得していること。客観的臨床能力試験に合格していること。		
授業の概要			
<p>本実習は対象者への一連の作業療法評価の実施、及び作業療法治療の一部を実施できることを目指す。内容としては、臨床実習指導者が立案した対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、必要な作業療法評価を立案し実施する。評価結果から対象者の課題をまとめ、対象者の作業療法目標および治療プログラムを立案する。作業療法治療介入は臨床実習指導者の指導・監督の下、学生の習熟度や対象者の安全面を考慮した上で、指導者が行う治療の補助を基本として実施する。さらに、各実習施設の地域医療の役割に即した作業療法についても学ぶ。本実習は、3年次後期の8週間の臨床実習であり、各障害領域の施設で実施する。教員は学生の実習状況を確認し、学生への教育指導に加え、実習指導者への実習指導に関する教育的な助言や調整を行う。担当教員は定期的に学生および実習指導者と連絡をとって指導するとともに現地巡回を行って指導する。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<p>1) 対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、必要な作業療法評価を立案し実施することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に必要な作業療法評価法について説明することができる。 ・対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、必要な作業療法評価を立案することができる。 ・作業療法評価について、指導者の技術の模倣を通して安全に実施することができる。 ・評価結果を整理し全体像を把握することができる。 ・対象者の課題を抽出し作業療法目標および治療プログラムを立案することができる。 <p>2) 臨床実習指導者の作業療法治療場面の一部を補助することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に必要な作業療法介入について、指導者の考えを理解し、説明することができる。 ・対象者の状態を踏まえ、治療介入の場所・時間の設定、治療器具等の準備ができる。 ・指導者が行う作業療法治療介入の補助をすることができる。 ・立案した作業療法プログラムの一部について、指導者の治療介入技術の模倣を通して安全に実施することができる。 			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
<p>1 週目 オリエンテーション、施設内各部署業務見学、作業療法場面（評価、治療）見学 2～6 週目 作業療法評価実施、作業療法治療場面補助、多職種カンファランス等、教員訪問指導 7～8 週目 作業療法治療場面補助、まとめ</p> <p>* 実習開始前学内オリエンテーションや実習後の報告会などは別途日程で実施する。</p>		<p>臨床実習指導者（各実習施設）、五百川和明、倉澤茂樹、曾根稔雅、澄川幸志、藤田貴昭、浅尾章彦、川崎伊織、石川陽子、川又寛徳三橋佑平、小笠原牧、田中善信、木村夏実、松本大典（作業療法学科教員）</p>	
テキスト	なし（配布資料）		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ●3年前期までに使用した教科書 ●必要に応じて紹介する 		
成績の評価方法	実習報告書60%、症例報告（発表及び報告書）20%、ポートフォリオ20%		
その他			